

*当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors

タイトル：「アフリカに関する史的研究と資料」（平成 26 年度第 1 回研究会）

日時：平成 26 年 6 月 21 日（土曜日）14 時より 17 時

場所：AA 研 306 室

① 出席者全員「研究会の趣旨・進め方等に関する討議」14:00–15:30（非公開）

最初に参加者全員がそれぞれ自己紹介を行い、その後、研究代表者（荻谷）が本研究課題の趣旨・進め方等についての説明を行った。それを受けて、出席者全員による本研究課題の研究方針や研究会の進め方等に関する討議へと進み、日本のアフリカ史研究全体の中での本研究課題の位置づけ、本研究課題で射程とする地域・時代の問題、文字資料のみに依存しないアフリカ史研究の可能性、ホームページやデータベースの作成を通じた資料情報の公開の可能性、成果公開の方向性等、複数の事項についての検討を行った。

② 荻谷康太「西アフリカに関する史的研究とアラビア語資料」15:30–17:00（公開）

本発表では、西アフリカの史的研究に利用できるアラビア語資料の資料状況紹介を行った。最初に、西アフリカの史的研究に資料できるヨーロッパ諸語資料及び現地諸語資料の状況を概観し、その後、アラビア語資料を大きく「地域内資料」（西アフリカで書かれた資料）と「地域外資料」（西アフリカ以外で書かれた資料）とに分け、その種類・量・内容・特徴等について説明した。また、史的研究への利用に際し、こうしたアラビア語資料群が抱える幾つかの問題点（叙述史料の不足や未刊行資料の多さ等）についての検討も行った。発表後、全体討議へと移ったが、そこでは、文字の使用される領域が社会的に制限されてきた西アフリカの歴史的状況や、アラビア語資料に対する現地の人々の認識とそれに附随する管理方法の在り方、植民地支配の在り方の違いが資料の残存状況や残存した資料の内容に及ぼした影響、西アフリカの数多ある現地語のうち幾つかの言語のみがアラビア文字によって表記されるようになった背景・理由等についての議論がなされた。